



住みやすい町を目指して…③0

観光とは伝統と進取の調和

前松田町観光協会会長 高橋 宥二(河内在住)

前町長時代から昨年まで15年間、観光協会会長を務めさせていただきました。15年間を振り返り、次の松田町の観光に先手を打つことができるのではないかと、筆をとらせていただきました。

「まつだ桜まつり」

平成8年、「21世紀に花を咲かせよう」と西平畑公園に河津桜100本を記念植樹したのが始まりです。

平成11年「まだ幼木ですが…」がキャッチコピーで第1回さくらフェスティバルを開催し、約3千人の方が訪ねてくれました。その後、道路の拡幅、桜300本の植樹で徐々に観光客も増えてきました。

そこで、NHKとTBSに定点カメラの設置をお願いし、桜が咲き始めたニュースや天気予報で放映してもらい、また小田急線の新宿駅や小田原駅等のコンコースに大きな桜のオブジェやポスターなどのPR効果もあり、平成20年の第10回桜まつりには、33万人の出人、新松田駅から仲町通り、松田駅から西平畑公園まで人の波でごった返しました。

これだけの人を迎えられたことは、商店・農家の方にも非常にプラスになり、町の活性化に間違いなく繋がった訳ですが、それを支えるボランティア及び町民の協力があつたからできたのだと思います。

観光協会は期間中の裏方、終わってからはテレビ局、交通会社、協力してくださった方々へのお礼等の仕事を黙々とやりました。

今年の観光客は、ピーク時の半分以下、他市町の桜が力をつけてきたこと、マンネリ化、対応への批判等、マイナス面が出てきました。もう一度原点に返り、何をしたらいいかを考え、実行すれば結果は出ると思います。

「まつだ観光まつり」「あしがら花火大会」

まつだ観光まつりの歴史は古く、中心となる奴振りの原点は、明治2年の小田原藩廃藩までさかのぼります。明治35年以後は、寒田神社の祭礼の行列に加わっています。昭和40年代は、商工振興会が中心になり、観光のため寒田神社から独立し、昭和53年より第



第40回まつだ観光まつりは8月26日開催

1回観光まつりとしてスタートし、今年第40回の節目を迎えます。まつだ花火大会は、平成12年に開成町と共催となり、あしがら花火大会として規模を大きくし現在に至っていますが、大井町と3町共催が念願です。

松田町観光協会は、各種まつりの企画運営や資金集め等すべてを任されており、1年中休む暇なく動いています。職員増等で松田町の観光が充実していくことを期待します。

※「住みやすい町を目指して」活動されている方や団体が、このコーナーに掲載を希望される場合は下記までご連絡ください。

皆さんの傍聴をお待ちしております! 第3回定例会は9月13日(水)

委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長	議会議長
石内	中野	南雲	井上	田代	利根川	田代
浩	博	まさ子	栄一	実	茂	

議会広報広聴常任委員会

今後も、開かれた議会・わかりやすい議会を目指して参りますので、よろしくお願ひします。(田代)

そして、上段の住みやすい町を目指して…③0は、町民の皆様からの寄稿によるもので、8年目を迎えております。

特に、広報紙の顔となる表紙には、その時々々の行事の活気ある雰囲気や伝わるようにと、心がけました。

私たちは、9月に委員の任期が満了となります。平成27年10月に就任後、2年間に200号〜207号まで累計102ページの編集作業を担当しました。

